

## 「感じる心」

森川 悠希

幸せ - 。この言葉を聞くとある人が頭に浮かぶ。彼はみんなから「K君」と呼ばれていた。彼の笑顔とともに一年前のあの記憶がよみがえってくる - 。

一年前、私は「職業体験」でH養護学校へ行った。この学校には重い障がいを持った子供達が通っていて、K君もその一人だった。職業体験一日目、この日は偶然、6月生まれのK君達の誕生日会があった。みんなで歌ったり、ビデオを見たり、ケーキを作ったり…。ここまでは楽しかった。私の気持ちが沈み始めたのはそのすぐ後のランチタイムの時の事だ。ケーキを食べている時、K君が私をじっと見ていた。不思議に思って彼を見るとある事に気づいた。彼はケーキを食べていない。においをかいだり触ったりするだけで、食べてはいないのだ。よく見るとK君のおなかには見慣れない器具が付けられていて、栄養ドリンクがチューブを通して直接おなかの中に入れていた。そのK君の目の前で、私はケーキを頬ばっていたのだ…。

二日目、K君の訓練のお手伝いをさせてもらった。その時彼の体を見ると、たくさんのチューブが付けられていた。彼の足は私の腕より細く、変形しているために歩けない。それでもK君は、私が顔を近づけると目をくりくりさせ、ゆっくりゆっくり笑ってくれる。つらい事ばかりなのに、幸せそうに笑ってくれる。

幸せ？…。K君にとっての幸せとは？つらいのに、苦しいのに、どうして彼は幸せそうに笑っているのだろう。

彼を見ているうちに分かってきた。大事なものは“心の在り方”だということ。それによってK君のように笑う事も出来れば、反対にいじける事もできる。つまり幸せとは、心の在り方によって感じる事も出来るし、感じられない事もあるのだ。

“気持ち良くて幸せ”“抱っこされて幸せ”K君のように、素直で敏感で、だけどたくましい心がこのような小さな幸せを感じとれるのだろう。だから彼は「幸せそうに」笑うのだ。この「小さな幸せを見つける」事が私には難しい。自分勝手に、すぐに両親に反抗する私には特に。

だから、心の片隅にK君をずっと入れておこう。彼から教わった事を忘れないために。彼を覚えておくために。そして…彼の笑顔を思い出すために。